

## 昇段レポート



中原 徹 弐段 (岐阜太田道場)

～2019年12月15日取得～



昇段の機会をいただき、太田師範に心より感謝いたします。  
また 審査の際、組手の相手をしてくださった道場生の皆様、ありがとうございました。  
声援を送ってくださった道場生の皆様にも感謝申し上げます。

昨年末の忘年会で来年の目標を発表することになり、自分は「必殺技を身につけて、Hさんを倒すことだ」と発言した。その時は、冗談のような言い方をしたが、これは自分の本音だった。Hさんは四十代半ばの緑帯の後輩であるが、大会で何度も入賞されている強者である。ここ二年程組手の相手をしてもらうと、彼のパワーとスタミナにはかなわないことを痛感していた。それでも、勝てないことを年齢のせいにはしたくなかった。  
達人といわれる人達は「達人技なんてない、人の何倍の努力と稽古をするしかない」と言われる。必殺技は、自分の今後の課題である。

太田師範は「空手を自分の生活の一部にしなさい」と言われている。  
それは、一日何十分練習するとか週二日練習日をつくるかという以外に、日々の生活の中で空手を活かすということであり、日常生活の中でいつも空手のことを頭の中に意識するということだと考える。

道場訓の中に「機に発し、感に敏なること」ということばがある。  
感覚を研ぎ澄ます練習は、道場の中で対人練習をしなくてもできる。  
日常のあらゆる事を利用することなのだと思う。自分の二つ目の課題である。

最後に、「六十過ぎた人が基本・移動・型・補強・二十人組手を若い人と同じようにこなしたことは自分の自信にして良いし、誇りに思っていますよ」と太田師範に言っていた時は、本当に嬉しかった。  
今回、受審の機会をいただきありがとうございました。

押忍